

平成27年度内閣府 地震・津波防災訓練 【青森県むつ市】

実施報告書 (概要版)



11月5日は津波防災の日

 内閣府
Cabinet Office, Government of Japan



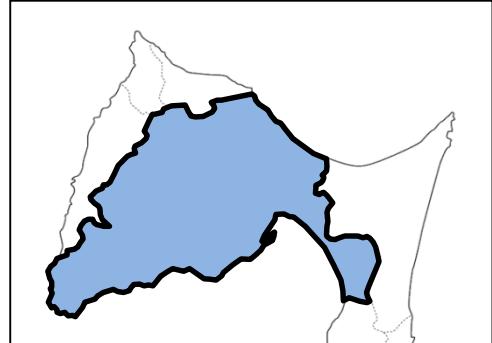
津波防災ひろめ隊
2015-2016

わたしたちご当地キャラクターが、津波防災の取り組みを
多くのみなさんにひろめるお手伝いをします。

青森県むつ市について

下北地方の政治、経済、交通の中心地として成長してきた田名部町と、海軍水雷団の設置から自衛隊の基地として発展を遂げた大湊町は、下北地方の中核都市として人口10万人の田園工業都市を目指し、昭和34年9月1日に「大湊田名部市」として合併し、翌年の8月1日に全国初のひらがなの市「むつ市」に改称しました。

平成17年3月14日には、ホタテ養殖等の漁業を中心としたまちづくりを進めてきた川内町、室町時代から続いているヒバ材搬出等の林業及びイカを中心とした漁業等によりまちづくりを進めてきた大畠町、タラとともに歩みまちづくりを進めてきた脇野沢村の3町村と合併し、新しい「むつ市」となりました。面積は青森県全体の約9%にあたる約864平方キロメートル、人口は60,839人（平成27年10月31日現在）です。



出典：むつ市ホームページ

訓練概要

■訓練想定：10月31日（土）午前9時、青森県東方沖を震源とするM7.9の地震が発生し、むつ市（気象庁観測所）では震度6弱、大畠地区（文部科学省観測所）では5強を観測、大畠地区では、52分後に4.2m、関根地区では55分後に5.1mの津波の到達が予想される。むつ市は、地震発生後ただちに災害対策本部を設置するとともに、住民に対し、防災行政無線等により津波からの避難を呼びかけた。

■実施日時：平成27年10月31日（木）09：00～12：00

シェイクアウト訓練、津波避難訓練	09：00～09：40
炊き出し訓練、住民初動対応訓練等	07：00～12：00
避難所開設・運営訓練、物資輸送訓練等	09：00～11：30
座屈建物からの救出・救助訓練等	11：20～11：40
漂流者搜索・救助訓練等	11：40～11：50
津波防災啓発イベント	10：00～10：30

■主 催：内閣府、青森県、むつ市

■参加者数：1,186名（※防災関係機関等を含む）

■参加機関：大畠・関根地区町内会、大畠小学校、コスモス幼稚園、大畠漁業協同組合、青森県隊友会下北地区協議会、むつ市大畠地区連合婦人会、日本赤十字社青森県支部、その他防災関係機関等

当日の訓練内容

09:00～ シェイクアウト訓練、津波避難訓練

自らの命は自ら守るという「自助」の取り組みに重点を置いたシェイクアウト訓練及び「自助」と相互に助け合う「共助」の取り組みに重点を置いた津波避難訓練を大畠・関根地区町内会、大畠小学校、コスモス幼稚園及び大畠漁協等が行い、発災から津波襲来までの避難行動について確認した。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練



07:00～ 炊き出し訓練、住民初動対応訓練

むつ市大畠地区連合婦人会、大畠分区赤十字奉仕団及び航空自衛隊により、おにぎり・豚汁の炊き出しを行い、訓練参加者等が試食した。また、住民初動対応訓練（初期消火訓練）においては、小学生等が消火器による消火要領を体験し、防災に関する意識の高揚を図った。

▼炊き出しの試食



▼初期消火訓練



09:00～ 避難所開設・運営訓練

町内会役員等を対象に避難所運営要員としての避難所開設・運営の基本的事項に関する講習を実施するとともに、約30名の避難所体験希望者を避難者役として、受付・誘導等の模擬避難所運営を行い、避難所用品等の取扱要領について体験・実習した。

▼町内会に対する講義



▼避難所用品の取扱い



11:20～ 座屈建物からの救出訓練、漂流者救助訓練

地震動により座屈した建物内部に取り残された負傷者等を巡回中の自主防災会（隊友会）が発見、消防及び陸上自衛隊と協同して救出・救助にあたり、応急救護所に負傷者を搬送した。

また海上自衛隊が空海から海上漂流者を捜索・発見し、救助を行う等、各防災関係機関が救出・救助要領を披露した。

▼座屈建物からの救出訓練



▼漂流者救助訓練

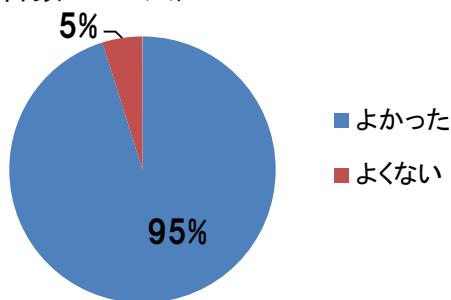


今後に向けた課題

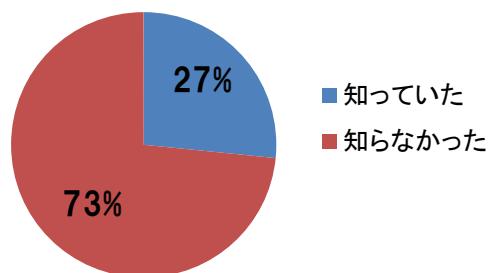
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（回答数：426名）

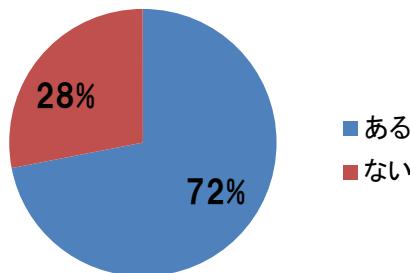
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
(回答数：411人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？（回答数：425人）



問 ハザードマップを見たことがありますか？（回答数：196人）



訓練の評価

訓練当日は、時々雨がぱらつく肌寒い天候であったが、地域住民、小学生、幼稚園児及び漁協職員等、689名、市職員及び防災関係機関等、497名の合計1,186名が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、市職員等の所見、地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」として整理した。

この結果、例年の防災訓練より参加者が多く「防災意識を啓発できた」という評価の一方で、次のような課題が明らかになった。

●今回の津波避難訓練においては、町内会単位で一時避難場所を選定させていたが徒歩で避難することを前提としていたためか、津波浸水予想地域内に所在する一時避難場所もあり、実際的な訓練ができなかった。町内会の訓練参加者の89%が60歳以上であることを考慮すると避難の手段（車両乗り合せ）や垂直避難場所の選定等、より実際的な避難要領を検討すべきである。

●市担当者の発意で避難時に避難完了目印として「白いタオル」の掲示をよびかけたが、実施率約45%に止まり、訓練参加者の参画は、やや低調であった。